

1 課

4月4日

聖書の独自性



安息日午後 3月28日

今週のテーマ

暗唱聖句

あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。(詩篇 119 : 105、口語訳)

あなたの御言葉は、わたしの道の光／わたしの歩みを照らす灯。(詩編 119 : 105、新共同訳)

今週の聖句

申命記 32 : 45 ~ 47、創世記 49 : 8 ~ 12、イザヤ 53 : 3 ~ 7、
1コリント 15 : 3 ~ 5、51 ~ 55、ローマ 12 : 2

聖書は類まれな書物で、40 人以上の記者が三つの（アジア、アフリカ、ヨーロッパ）大陸で、1500 年以上の歳月をかけて書いた 66 の書巻から成っています。聖典であれ、宗教書であれ、このような本はほかにありません。それもそのはず。何しろ、これは神の言葉なのですから……。

西暦 4 世紀までに書かれた新約聖書の写本は、2 万 4600 点以上現存しています。プラトンの写本の中で残っているのは 7 点、ヘロドトスは 8 点、ホメロスの『イーリアス』は少し多くて 263 点。それゆえ、私たちは新約聖書の文章が損なわれていないことを裏づける強い証拠を持っているのです。

聖書は、初めて翻訳された本、西欧で初めて印刷機で出版された本、初めて多くの言語で広く配布された本（現在では地球上の 95 パーセントの人が読める本）として知られています。

聖書はまた、その内容とメッセージにおいても類まれであり、歴史の中における神の贖いの業に焦点を合わせています。その歴史は、預言が神の御計画の未来と永遠の国を予告しているように、預言と絡み合っています。聖書は、神の生ける言葉です。なぜなら、私たちが御言葉を学ぶとき、聖書全巻を導かれた同じ神の“霊”が（Ⅱテモ 3 : 16、17）真理をことごとく悟らせくださる、と今日の信者たちにも約束されているからです（ヨハ 14 : 16、17、15 : 26、16 : 13）。

最も重要な言葉は、しばしば最後に口にされます。聖書の最初の5巻を記したモーセは、死の直前に人々に歌を語り聞かせました（申31：30～32：43）。

問1 申命記32：45～47を読んでください。約束の地に入る間際、モーセは神の言葉とヘブライ人の生活の中における御言葉の力を、どのように描写しましたか。

モーセの最後の言葉の中には、強い勧告が含まれています。モーセを通して神が語られた言葉に人々の心を留めさせることで、彼らの目を神と、彼らの生き方に対する神の御旨に向け続けるべきであることを強調したいと、彼は願ったのです。これらの言葉を子どもたちに教えることによって、各世代が神の救済計画の約束を伝えることになるでしょう。彼らは言葉を取捨選択するべきではなく、「この律法の言葉をすべて」（申32：46）守るべきである点に注目してください。

神は地球史の終わりに、聖書のすべてに忠実であり続ける民をお持ちになるでしょう。聖書のすべてに忠実であるとは、神の掟を守り、イエスのあかしを持つという意味です（黙12：17）。この民は、聖書の教えを忠実に守り続けています。なぜなら、それが地上での生活をより豊かにするだけでなく、イエスが私たちのために用意しておられる家で永遠に過ごすという運命を確かなものにするからです（ヨハ14：1～3）。

問2 ヨハネ1：1～5、14、14：6を読んでください。これらの聖句は、イエスと永遠の命について、どのようなことを教えていますか。肉となった^{ことば}言は、聖書の啓示や靈感とどのように関係していますか。

聖書全巻の焦点、目標はイエスです。メシアとして彼が肉体を取って来られたことは、旧約聖書の約束の成就でした。イエスが生き、死に、再び生きておられるがゆえに、私たちは裏づけられた聖句だけでなく、さらにすばらしいことに、まったく新しい存在としての永遠の命という大いなる約束をも持っているのです。

申命記32：47を読み直してください。あなたはどのように神の言葉は「決してむなしい言葉ではな」という真理を体験したことがありますか。神を信じること、神の言葉に従うことは、なぜむなしくないのですか。

記者が多様であること、彼らの活動場所や背景が多様であることは、対象となる読者と同様、文化的に多様な人々に歴史やメッセージを伝えるために神が働いておられることの比類なき証拠です。

問3 聖書の記者と彼らの背景について、次の聖句はどのようなことを教えていますか（出2：10、アモ7：14、エレ1：1～6、ダニ6：1～5、マタ9：9、フィリ3：3～6、黙1：9）。

聖書は、さまざまな種類の背景を持ち、さまざまな状況の中にいる人たちによって書かれました。王宮で書いた人もいれば、牢獄で書いた人、捕囚の身で書いた人、福音を伝える宣教旅行の途中で書いた人もいます。これらの人たちは、受けた教育も、従事する職業も異なりました。モーセのように王になるはずだった人や、ダニエルのように高官として働くことが運命づけられていた人もいれば、身分の低い羊飼ひもいました。とても若い人もいれば、かなりの高齢者もいます。こういった違いにもかかわらず、彼ら全員には一つの共通点がありました。神によって召され、聖霊によって靈感を受け、いつどこで生きていたとしても、神の民へのメッセージを書いたという共通点です。

また、この記者たちの中には、彼らが詳しく記した出来事の目撃者であった人もいれば、個人的に出来事を慎重に調べたり、既存の資料を注意深く用いたりした人もいました（ヨシュ10：13、ルカ1：1～3）。しかし、聖書はすべての部分が靈感を受けています（Ⅱテモ3：16）。ですからパウロは、「書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から……慰めを学んで希望を持ち続けることができるのです」（ロマ15：4）と述べています。人間の言語を造られた神は、靈感を受けた思想を選ばれた人たちが人間の言葉で、しかも信頼できる方法で伝えることができるようになるのです。

「神は、ご自分の真理を、人間を通して世にお伝えになった。そしてご自分の聖霊によって、人々に、この働きをなす資格と能力をお与えになった。神は人を導いて、語るべきことと書くべきこととを選ばせられた。宝は土の器である人間に託されたが、しかしその宝が天来のものであることにはかわりがない」（『セレクトッド・メッセージ』12、13ページ）。

さまざまな記者や背景にもかかわらず、全員が同じ神を明らかにしました。この驚くべき真理は、神の言葉の信ぴょう性を私たちが確認するうえでいかなる助けとなりますか。

聖書は、有名なほかの宗教書の中でも類まれな存在です。というのも、内容の30パーセント近くが預言や預言的文書だからです。預言とその成就が、聖書の世界観の中心を成しています。なぜなら、歴史の中で働かれる神は、未来をご存じであり、それを御自分の預言者たちに示してこられたからです（アモ3:7）。聖書は、生ける言葉や歴史に関する言葉であるだけでなく——預言の言葉なのです。

問4 次の聖句は、来るべきメシアについて、どのような詳細を明らかにしていますか。創世記49:8~12、詩編22:13~19（口語訳22:12~18）、イザヤ53:3~7、ダニエル9:2~27、ミカ5:1（口語訳5:2）、マラキ3:1、ゼカリヤ9:9

旧約聖書の中には、直接的なメシア預言が少なくとも65あり、予型論的言及を加えればもっと多くなります（予型論とは、例えばいけにえなど、旧約聖書の儀式がいかにかイエスの預言であったかということに関する研究）。これらの預言は、「王笏はユダから離れず」（創49:10）とか、メシアがベツレヘムで生まれる（ミカ5:1〔口語訳5:2〕）とか、彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、打たれ、濡れ衣を着せられるが、口を開かない（イザ53:3~7）とか、彼の手足は刺し貫かれる（同）とか、着物は分けられるだろう（詩編22:13~19〔口語訳22:12~18〕）といった具体的な詳細に触れています。

イエスの人生と死と復活において、旧約聖書のこういった預言が正確に成就したという事実は、それらが神の靈感と啓示を受けていたことの証拠です。そのことはまた、イエスが、彼やほかの人たちが主張したお方〔メシア〕であったことも示しています。イエスは、昔の預言者たちと同じように、御自分の死や復活（ルカ9:21、22、マタ17:22、23）、エルサレムの滅亡（マタ24:1、2）、再臨（ヨハ14:1~3）を預言されました。このように、受肉、死、復活は聖書に預言されており、それらの成就是、聖書が信頼できることの証拠なのです。

イエスと、私たちのための彼の死をあなたが信じる理由には、どのようなことがありますか。安息日学校のクラスでその理由を分かち合い、なぜその証拠に説得力があるのか話し合ってください。

聖書は、ほかの「聖なる」書物と比べて類たぐいまれな書物です。なぜなら、それは人間の歴史の記録だからです。これは、聖書が単なる（孔子や仏陀のような）人間の哲学的思想ではなく、歴史の中における神の行為を（それが具体的な目標に向かって進むままに）記録しているという意味です。聖書の場合、この目標とは、①メシアの約束と、②イエスの再臨です。このような〔歴史的〕進展は、ユダヤ・キリスト教信仰ならではのもので、古代エジプトから現代の東洋の宗教に至るまで、多くの世界宗教が持つ循環的世界観とは大きく異なります。

問5 1コリント 15：3～5、51～55、ローマ 8：11、1テサロニケ 4：14 を読んでください。これらの聖句は、キリストの復活という歴史的事実だけでなく、私たち1人ひとりにとって、どのような意味があると教えていますか。

四福音書とパウロのあかしは、イエスが亡くなり、埋葬され、死者の中から肉体を持って復活し、さまざまな人の前に姿を見せられたというものです。このことは、イエスを墓に納め、のちに空の墓を見た目撃者たちによって確証されています。証人たちはイエスの体に触れ、イエスは彼らと食事をとしました。マグダラのマリア、イエスの母マリア、そのほかの女性たちは、イエスを復活されたキリストとみなしました。エマオへの途上、イエスと話した弟子たちもいました。イエスは宣教命令を与えるために、彼らの前に姿を見せられたのです。パウロは、もし聖書のあかしが否定されるなら、私たちの宣教も信仰も「無駄です」（1コリ 15：14）と書いています。「無効です」「無益です」と訳されている場合もあります。弟子たちは、「本当に主は復活（さ）……れた」（ルカ 24：34）と言いました。「オントス」というギリシア語は、実際に起こったことに関係する言葉で、「本当に」「確かに」などと訳されます。弟子たちは、「主は確かに復活された」と証言したのです。

キリストはまた、すべての死者の「初穂」（1コリ 15：20）と表現されています。キリストが肉体を持って死者の中から復活し、現在生きておられるという歴史的事実は、私たちも同じように復活させてもらえるという保証です。すべての義人が「キリストによって……生かされることになります」（同 15：22）。ここでの〔ギリシア語の〕言葉は、「キリストが来られるときに、キリストに属している人たち」（同 15：23）や彼に忠実であり続ける人たちが、「最後のラッパが鳴るとともに」（同 15：52）復活する、未来における創造の業を含んでいます。

復活の約束は、死者が眠っているという私たちの信仰にとって、なぜ重要なのですか。この約束がなければ、私たちの信仰は本当に「無駄」なのでしょうか。

問6 列王記下 22 : 3~20 を読んでください。なぜヨシヤ王は衣を裂いたのですか。律法の書を発見したことで、彼やユダの民全体はどのように変わりましたか。

紀元前 621 年、ヨシヤが 25 歳の頃、大祭司ヒルキヤが「律法の書」を発見しました。それは、モーセの最初の五書か、特に申命記だったかもしれません。ヨシヤの父アモンと非常に邪悪だった祖父マナセが統治していた時代、この巻物は、バアル、アシェラ、「天の万象」（王下 21 : 3 ~ 9）への礼拝の中で行方不明になっていたのです。ヨシヤはその契約の条件を耳にすると、深く嘆き悲しんで衣を裂きました。彼と彼の民が、真の神を礼拝することからどれほど離れてしまったのかを自覚したからです。ヨシヤはすぐに国中で改革を始め、高台を取り壊し、外国の神々の偶像を破壊しました。彼が改革を終えたとき、ユダには礼拝の場所が 1 か所しか残っていませんでした。エルサレムの神殿です。神の言葉を発見したことで、回心、悔い改め、そして変える力が与えられました。この変化はヨシヤに始まり、最終的にユダの全土に広がったのでした。

問7 聖書には私たちの人生を変え、救いに至る道を示す力があります。聖書はそのことをいかに確かにしていますか。ヨハネ 16 : 13、17 : 17、ヘブライ 4 : 12、ローマ 12 : 2 を読んでください。

聖書の力に関して最も説得力のある証拠の一つは、人の変えられた人生です。御言葉は人の罪と墮落を切り裂き、私たちの本当の人間性と、私たちがキリストを必要としていることを明らかにします。

人間の歴史、預言、人生を変える力を持つ聖書のような類まれな書物は、解釈もまた、類まれな方法でなされねばなりません。ほかの本のように解釈はできません。なぜなら、神の生ける言葉は、「真理をことごとく悟らせ」（ヨハ 16 : 13）てくださる聖霊を遣わすと約束された生けるキリストの光に照らして、理解されねばならないからです。さらに、神の真理の啓示である聖書には、解釈のための内部原則が含まれているに違いありません。その原則は、聖書記者たちがどのように〔旧約〕聖書を用い、また（聖書に聖書を解釈させることで）彼らがどのように聖書によって導かれたのかを研究することで見いだされます。

参考資料として、『各時代の争闘』第37章「ただ1つの防壁——聖書」、『各時代の希望』第73章「あなたがたは心を騒がせないがよい」を読んでください。

「神は、みことばを通して、救いに必要な知識を人間にお与えになった。われわれは、聖書を、神のみことばについての権威ある、まちがいのない啓示として受けとらねばならない。聖書は品性の規準であり、教理を示すものであり、経験を吟味するものである」（『希望への光』1592ページ、『各時代の争闘』上巻(3)ページ）。

神の言葉を支持し、御言葉に忠実であったために死んだ人が大勢います。その1人が、英国の教区教会牧師だったローランド・テイラー博士です。彼は、「血まみれのメアリー」（メアリーI世）の治世中、自分の教区であったハドリーの町におけるカトリックミサの強制に反対しました。聖書に忠実であったために教会から追放され、嘲笑されたので、彼は英国の最高責任者ウィンチェスター大主教に直訴しましたが、投獄され、最終的に火刑に処せられたのです。1555年に亡くなる直前、テイラーは次のように言いました。「善良な人々よ！ 私はあなたがたに、神の聖なる言葉と、神の祝福を受けた本、聖書から得た教訓以外は何も教えませんでした。私はきょう、死をもってそれを証するためにここへ来たのです」（ジョン・フォックス『新・殉教者列伝』H・J・チャドウィック改訂版193ページ、英文）。テイラーは、火がつけられ、命を投げ出す前、詩編51編を繰り返し唱えていたといえます。

話し合いのための質問

- ① 預言は、聖書の起源が神にあることをどのように支持していますか。成就したこれらの預言によって、どのように自分の信仰を肯定することができますか。
- ② 火曜日の研究の最後の質問に関連して、メシアとしてのイエスの証拠は、なぜ説得力があるのですか。
- ③ イエスと使徒たちは、聖書の信頼性とその聖なる権威に対する揺るぎない信仰をはっきり示しました。例えば、イエス御自身は、何度聖書に言及し、何度聖書は（しばしば御自身に関して）「実現」しなければならないと言われたことでしょうか（マタ26：54、56、マコ14：49、ルカ4：21、ヨハ13：18、17：12参照）。このように、もしイエス御自身が聖書（彼の場合は旧約聖書）を（とりわけ預言が成就することに関して）真剣に受け止められたのであれば、聖書に対する私たちの態度もどうあるべきでしょうか。